

春季特別展

古代越前の文字

福井ゆかりの資料から探る
文字文化の広がり



文字から感じてみよう！
古代福井人の息吹き

平成24年
3月23日[金] — 5月6日[日]

開館時間=9:00~19:00 ※入館は閉館の30分前まで
休館日=4月16日[月]

観覧料=大人600円、高校・大学生500円

※団体はそれぞれ2割引
※中学生以下、70歳以上、障害者とその介助者は無料

主催：福井市立郷土歴史博物館

後援：福井県教育委員会／福井新聞社／NHK福井放送局／FBC福井放送／福井テレビ／FM福井／福井ケーブルテレビ、さかいケーブルテレビ／福井街角放送

福井市立郷土歴史博物館 福井市宝永3丁目12-1 TEL.0776-21-0489
ホームページは「福井郷土」で検索！



古代越前の文字



平城京跡から出土した「阿須波(あすわ)里」の木簡(奈良文化財研究所蔵)
(展示期間:3月23日~4月2日)

日本の文字文化は漢字の導入から始まります。中国で生まれた文字「漢字」は、東アジア各地に広まり、国際的な文字として使われました。日本には中国との外交を通じて伝えられ、やがて日本の文字文化は『古事記』『日本書紀』『万葉集』となって奈良時代に結実し、その後もかな文字など独自の発展を遂げていきました。

このような古代の文字の広がりを知ることができるとしては、奈良の正倉院に納まる「正倉院文書」が重要な史料として研究されてきた一方で、近年では木簡や墨書土器といった考古学的な資料の調査も進み、文献に乏しい地方の文字についても知る事ができるようになってきました。

本展では、奈良時代の東大寺領荘園絵図や法隆寺旧蔵の經典、平城宮・平城京跡出土木簡などの貴重な資料をはじめ、県内出土の墨書土器などの考古資料も広く展示して、越前やその周辺地域での古代の文字のあり方をご紹介します。

福井ゆかりの資料から探る文字文化の広がり

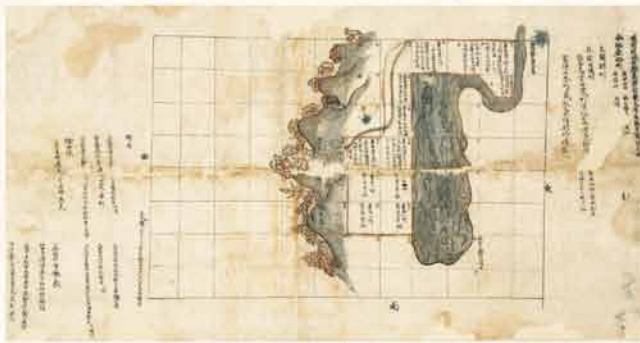


文字が表わされた古墳時代の銅鏡(福井市教育委員会蔵)



越前の豪族「生江」氏の名が書かれた土器(福井市教育委員会蔵)

「梗」などたくさん文字を練習した木簡(福井市教育委員会蔵)



東大寺の荘園「高申荘」の絵図(重要文化財・奈良国立博物館蔵)
(展示期間:3月23日~4月5日、4月23日~5月6日)



「泰澄」の署名がある法隆寺旧蔵の經典(巻末部分)(宮内庁書陵部蔵)

- 福井駅から
 - ・徒歩で福井城本丸跡(福井県庁)を見ながら約10分
 - ・京福バスで福井駅前バスより幾久・新田塚線(幾久先回り)などで「郷土歴史博物館」下車 徒歩約5分
 - ・タクシーで約5分
- 福井I.C.、福井北I.C.から車で約20分
- コミュニティバスすまいる(田原・文京方面)で「江戸上町」下車、徒歩約5分



福井市立郷土歴史博物館



関連イベント

■ 見どころ講座

「東大寺領荘園関係文書を読む」

4月15日[日] 14時~16時
講師: 角鹿尚計(当館学芸員)
会場: 当館2階講堂
定員: 60名(当日受付)

■ 講演会「平城宮木簡を読む」

4月28日[土] 14時~15時30分
講師: 馬場基さん(奈良文化財研究所主任研究員)
会場: 当館2階講堂
定員: 60名(当日受付)

■ ギャラリートーク(展示解説)

3月24日[土]、5月3日(木・祝)
両日も14時から45分程度
会場: 特別展会場(当館2階企画展示室)
定員: 自由参加
(ただし特別展の観覧券が必要)

■ ワークショップ

「和同開珎を作ろう！」

低溶金属を鋳型に流し込む鋳造実験を見てから、鋳上がった和同開珎を磨いて完成させよう!

4月21日[土] 14時~15時30分

会場: 1階ロビー
定員: 30名(当日先着順)
参加費: 100円(材料費)

■ ワークショップ

「木簡に書いてみよう！」

木の板を削って木簡にし、奈良時代の万葉仮名で文字を書いてみよう!

4月29日[日] 14時~15時30分

会場: 1階ロビー
定員: 30名(当日先着順)
参加費: 100円(材料費)

